

平成29年度行政事業レビューシート(厚生労働省)

事業名	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター設備整備費補助金			担当部局庁	医政局		作成責任者		
事業開始年度	平成25年度	事業終了(予定)年度	平成29年度	担当課室	医療経営支援課		課長:佐藤 美幸		
会計区分	一般会計								
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	独立行政法人通則法(平成11年法律第103号)第46条 第1項			関係する計画、 通知等	平成28年11月8日厚生労働省発医政1108第4号「平成28年度 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター設備整 備費の国庫補助について」				
主要政策・施策	科学技術・イノベーション			主要経費	社会保障				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター(以下「国立精神・神経医療研究センター」という。)の設備の整備のために要する経費を補助することにより、高度専門医療に関する研究等を行う独立行政法人に関する法律(平成20年法律第93号)第15条の業務の円滑な実施及び同業務の推進に資すること。								
事業概要 (5行程度以内。 別添可)	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センターについて、国際水準の質の高い治験・臨床研究が確実に実施される仕組みを構築するため治験・臨床研究体制を整備する。								
実施方法	補助								
予算額・ 執行額 (単位:百万円)	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度要求				
	当初予算	-	-	-	-				
	補正予算	188	-	65	-				
	前年度から繰越し	375	188	-	65				
	翌年度へ繰越し	▲ 188	-	▲ 65	-				
	予備費等	-	-	-	-				
	計	375	188	0	65	0			
	執行額	375	188	-					
	執行率(%)	100%	100%	-					
当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%)	199%	#DIV/0!	0%						
平成29・30年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	29年度当初予算	30年度要求	主な増減理由					
	-	-	-						
	計	-	-						
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標	単位	26年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 29 年度	
	治験・臨床研究体制整備の 完了年度予定数	成果実績	数	1	1	-	-	1	
		目標値	数	1	1	-	-	1	
		達成度	%	100	100	-	-	100	
根拠として用いた 統計・データ名 (出典)	国立精神・神経医療研究センターに対する調査								
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	26年度	27年度	28年度	29年度 活動見込	30年度 活動見込	
	治験・臨床研究体制ための体制を整備		活動実績	件	1	1	-	1	-
			当初見込み	件	1	1	-	1	-
単位当たり コスト	算出根拠		単位	26年度	27年度	28年度	29年度活動見込		
	単位当たりコスト=X/Y X:当該年度執行額 Y:当該施設数		単位当たり コスト	百万円	375	188	-	65	
			計算式	X/Y	375/1	188/1	-	65/1	

事業所管部局による点検・改善

項目		評価	評価に関する説明		
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	国立精神・神経医療研究センターが実施する研究は、他の研究者が実施しない又はできない研究(①国民の健康に重大な影響のある疾患のうち、国として早急又は積極的に対応する必要があるという判断した研究②難治性・希少性の疾患に関する研究③中長期に渡って継続的に実施する必要のある疫学的なコホート研究や、専門領域における相当数の症例の積み重ねにより明らかとなつた新たな科学的知見を踏まえ、治療指針(ガイドライン等)を作成・改訂するための研究等、その成果の普及及び政策の提言につながる研究)を通じ、国との密接な連携の下、我が国の政策課題となつてゐる精神、神経、筋疾患及び知的障害その他の発達障害に対する高度専門的な医療の開発及び確立、人材育成等を行つてゐることから、国が実施すべき事業であり、事業の優先度も高く、国費を投入しなければ事業目的が達成できない。		
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	同上		
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	同上		
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	-			
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となつたものはないか。	-			
	競争性のない随意契約となつたものはないか。	-			
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-	-		
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	-	-		
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなつてゐるか。	-	-		
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	-	-		
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-		
	繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	○	仕様作成や機器の選定及び機器の設置場所の確保・調整等に不測の時間を要したものであり、適切な手続きを経た上で繰り越しを行つてゐる。		
事業の有効性	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われてゐるか。	-	-		
	成果実績は成果目標に見合つたものとなつてゐるか。	-	-		
	事業実施に当たつて他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	-	-		
	活動実績は見込みに見合つたものであるか。	-	-		
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	-	-		
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行つてゐるか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	○	「事業番号92:国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター運営費」運営費交付金は研究・臨床基盤経費等の費用であり、建物等の整備費用である施設整備費とは重複しない。 「事業番号96:国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター施設整備費」施設整備費は建物等の整備を行うための費用であり、研究・臨床基盤経費等の費用である運営費交付金とは重複しない。		
	所管府省名	事業番号	事業名		
	厚生労働省	0092	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター運営費		
	厚生労働省	0096	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター施設整備費		
点検・改善結果	点検結果	上記のとおり、点検したところ、現段階では特段問題はないものと考える。なお、予算が繰り越されているので、計画どおりに執行されるよう注視していく必要がある。			
	改善の方向性	計画どおりに執行されるように注視していく。			
外部有識者の所見					
シートに事業名を記載していただきたい。H29年度終了の事業を是認しながらも、本来28年度での予算が繰り越されたことは、計画性としては反省する余地があるのではないか。(井出 健二郎)					
行政事業レビュー推進チームの所見					
終了予定	事業は当初の予定通りの成果を達成したため、平成29年度をもって終了すること。 なお、外部有識者の所見を踏まえ、今後、類似事業の執行に当たつては、繰り越しが発生しないよう努めること。				

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

予
終
了
通
り

当該事業は平成29年度をもって終了するが、得られた知見や外部有識者の所見を踏まえ、類似事業にも活用する。

備考

関連する過去のレビューsheetの事業番号

平成22年度	-	平成23年度	-	平成24年度	-	
平成25年度	-	平成26年度	95	平成27年度	100	
平成28年度	96					

※平成28年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

(イメージ)

厚生労働省
65百万円

【補助金等交付】

A. 国立研究開発法人国立精神・神経
医療研究センター
65百万円

〔 国立精神・神経医療研究センターの
設備の整備のため要する経費の一部 〕

【一般競争入札等】
B. 治験・臨床研究体制整備事業
○○株式会社 他
65百万円

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行つ
て補足する)
(単位:百万円)

